－谷川連峰－

小出俣山・阿能川岳　＜縦走＞

０９年３月２０～２１日

Ｌ 後藤　西村（文）　他１名

久しぶりにピッケルを握った。8 月に父親が倒れ、ばたばたして山どころではなかった。時間はあっても気力が出ない。やはり山は、精神的にも余裕がないとできない贅沢なスポーツなのだ。

今回は、後藤さんの奥方、「ブロッケン山の会」の孝子さんと同行させてもらった。後藤さんは、以前から阿能川岳に登りたかったらしく、今回ようやく実現したそうだ。

19 日夜発、道の駅「たくみの里」で仮眠、20 日は朝から雨で 8 時まで停滞、空が明るくなってきたので川古温泉へ移動する。取り付きは、十二社ノ峰から南に延びる尾根の末端部分だ。ただし尾根の突端の岩峰は見た目より手強いとのことで、岩峰が終わった所から取り付いた。時間は 9:10、雪は全くないが、濡れ落ち葉ですべるので、むしろしっかり雪が付いてくれた方が登りやすい。取り付いてから 30 分程で標高 800 ㍍の稜線に出る。後はひたすら尾根歩きだ。

標高 1100 ㍍あたりから雪が付き始めた。つぼ足でガンガン登ると言いたいところだが、半年ぶりの山なのでぜんぜんダメ。後藤夫妻についていくのがやっとだ。テン場予定の松ホド山に近づくにつれ風が強くなり、小雪も舞ってきた。

事前に地形図で判断した雪庇の危険性は、松ホド山から小出俣山までだが、十二社ノ峰を過ぎたところから早々と雪庇が出てきた。めんどくさいが慎重に標高を稼ぐ。本日、この尾根に取り付いたパーティーは我々のみ。

14:00 、標高 1481 ㍍の松ホド山に到着。強風のため、ブロックを高く積み上げてテントを設営する。土方仕事の大好きな後藤さんは、スコップを振るい続け立派なトイレも設置してくれた。

気温は春だが、風が強くテントのフライが凍り付いてチャック破損。風でテントが揺れる。やはり悪条件だとフライは弱い。

21 日は快晴。ドが付くピーカンだ。テントの撤収に時間がかかり 7:00 出発。延々と続く雪庇を避けながら慎重に登る。雪はしまって所々クラストしているので、急斜面は先頭の後藤さんがカッティングして足場を作る。ザイルはいつでも出せる用意はしていたが、今回は出さなかった。初心者がいる場合は要所々出した方が無難だろう。

10:10、標高 1749 ㍍の小出俣山に立つ。評判通りの大パノラマ。白銀の谷川国境稜線がまぶしい。

次はいよいよ後藤さん念願の阿能川岳だ。ただし、後藤さんには悪いが、小出俣から見る阿能川岳はただの出っ張り。稜線からちょっと外れた、出

べそ、盲腸のたぐいだ。だが、驚いたことにこのピークは、人だらけ。人気の雪山ハイクのポイントらしい。人っ子一人いなかった小出俣とは対照的だ。厳冬期の冬山練習にも良さそうだ。

下山ルートをどこに取るかさんざん迷いつつ、結局計画通りヨシガ沢山から送電線沿いに仏岩林道に出る。送電線巡視用の道が整備されヤブ全くなしの立派な登山道だ。東電に感謝。

天候と雪の状態に恵まれ、予定の二泊を一泊で縦走できたので、水上で温泉にゆっくりつかって、道の駅で高級上州和牛で、すき焼きパーティー。

半年ぶりの山は、この上なくきつく、この上なく楽しいものだった。

＜コースタイム＞

―２０日　雨のち曇り、時々雪―

9:10　川古温泉

9:40　稜線

13:00　十二社ノ峰

14:00　松ホド山　（テン場）

―２１日　快晴―

7:00　松ホド山　（テン場）

10:10　小出俣山

12:20　阿能川岳

16:00　仏岩林道

小出俣山から谷川岳

阿能川岳から谷川岳

テン場から小出俣山

＜情報＞

・川古温泉からの取り付きは、末端の岩峰を大きく避ける。

・三岩山から大木穴沢への下降ルートは尾根の末端がすとんと落ちている。